

夢の看護師へ貴重な体験

聴診器を使って新生児の心臓の音を聞く生徒



製鉄記念室蘭病院

西胆振の高校生を対象にした「ふれあい看護体験」

が7月30日、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院(前田征洋院長)で開かれ、白衣に身を包んだ生徒たちが看護師などの仕事について

理解を深めた。

患者との触れ合いに重点を置いている同病院の看護体験は、毎年夏休み期間中に実施しており、体験後に看護学校を経て同病院へ就職した看護師もいる。今回は室蘭、登別、伊達の3市から男子1人を含む2、3年生16人が参加した。

生徒たちはグループに分かれて、入院患者の足浴や散歩を手伝った。産婦人科・小児科病棟では、生後1週間に満たない新生児のもく浴を見学。生徒も聴診器で心臓の音を聞いたり、髪をすいたりした。

室蘭清水丘高3年の山口歩華さんは「赤ちゃんの心臓の音はすごく速かったです。助産師の仕事を間近で見られて良かったし、自分もお母さんや赤ちゃんに頼られる助産師になりたい」と貴重な体験を振り返った。同病院の塚田秀子看護部長は「体験を通して、自分自身の看護観がどう変わったのかを考えてもらえたら」と担い手たちの成長に期待していた。(奥野浩章)